

- 38) BERTIL HANOS: 鉄と鋼, 45, (1959) No. 12  
 39) 石原善雄, 安藤公平, 森脇和男, 渋谷正吾:  
 鉄と鋼, 44 (1958) No. 3  
 40) C. L. RICHARDS and HENRY LEVESQUE:  
 Proc. Electr. Furn., 15 (1957) p. 175  
 41) EARL M. ANGER and JOHN P. MARTIN, JR.  
 Proc. Electr. Furn., 15 (1957) p. 165  
 42) H. W. CALKINS and M. F. HASLER: Proc.  
 Electr. Furn., 15(1957) p. 181  
 43) S. L. CASE, D. D. MOORE, C. E. SIMS, R. J.  
 LUND: Battelle Memorial Institute (1953)  
 July  
 44) C. F. RAMSEYER: Proc. Electr. Furn., 11

- (1953)p. 202  
 45) W. A. HOFF: Proc. Electr. Furn., 14 (1956)  
 p. 293  
 46) R. DURRER and G. HEINTZE: J. Iron & Steel  
 Inst. (U.K.) 187 (1959) May  
 47) P. E. CAVANAGH: Proc. Electr. Furn., 14  
 (1956) p. 281  
 48) JOHN L. STALHED: Proc. Electr. Furn., 14  
 (1956) p. 286  
 49) ULF GUNIMERSON: Proc. Electr. Furn., 16  
 (1958) p. 244  
 50) R. W. FARLEY: Proc. Electr. Furn., 16(1958)  
 p. 249

特許記事 1520 ページよりつづく

～1.0%, クロム 24～28%, ニッケル 23～35% (23%を除く), モリブデン 2～6%, 銅 0.8～1.5%, チタン 0.5% 以下及び燐, 硫黄その他微量の不純物を含有する鉄よりなる。

#### 平炉用蓄熱室に関する改良

特公・昭 35—3202 (公告・昭 35—4—7) 出願: 29—2—2, 出願発明: ラッセル・ピヤアス・ヒュウエル

#### 磁気硬化方法

特公・昭 35—3204 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—9—27, 発明者: 図師安雄, 出願: 神戸工業株式会社

被処理鉄鋼部材に直流磁場或は交流磁場を与え, 焼入に伴う歪を除去すると共に硬度を高める。

#### クロムの電解製錬法

特公・昭 35—3210 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—6—19, 出願発明: 堀居太郎, 前島敬一

第1工程としてクロル酸ソーダ溶液を製造する工程と第2工程として該クロム酸ソーダ溶液を亜硫酸ガスで還元し必要に応じて酸又はアルカリを添加して pH 6～7 に調整して亜硫酸ガスを多量に含む水酸化クロムを製造する工程と, 第3工程として前記水酸化クロムを次工程の陽極廃液と必要に応じて硫酸を添加して中和と還元を同時に行い, 更に陰極廃液を追加して除銅と残留亜硫酸ガスを分解した後, pH 緩衝剤として硫酸, 硼酸等を添加してクロム電解液を製造する工程と, 第4工程として前記電解液を用いて鉛その他の不溶性陽極を陽室内に納め, 陰極室を用い又は用いずして電解して電解クロムを製造する工程の結合よりなる。

#### フェロクロムを電極として

#### 含ニッケルステンレス鋼を製造する方法

特公・昭 35—3211 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—6—2, 出願発明: 堀居太郎

シリコンクロム或はフェロシリコンとニッケル鉱石に適宜溶剤を加えて電気炉に装入し, フェロクロムの金属電極を用い熔融する事を持徴とするフェロクロムを電極として含ニッケルステンレス鋼を製造する方法

#### 複式製鋼法

特公・昭 35—3212 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—4—17, 発明: 相原満寿美, 出願: 八幡製鉄株式会社

複式製鋼炉において一方の炉では加熱された冷材に溶銑を装入して溶解精練作業を行い, 他方の炉では精練作

業の廃瓦斯を主熱源として装入冷材の加熱作業を平行して行うと共に該両作業を交換して繰返し行うことを特徴とする高温廃瓦斯を利用する複式製鋼法。

#### 球状黒鉛鉄製造用添加剤又は脱酸, 脱硫剤

特公・昭 35—3213 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—5—1, 発明: 松本 弘, 葛西豊治, 出願: 東京化金工業株式会社

重量比にて炭化カルシウム粉末 0.5～5% に, 無水塩化セリウム族又は無水塩化マグネシウム或は両者の混合物 0.1～3% を緊密に混合するか, 又は, 炭化カルシウム粉末 0.2～3%, 無水塩化セリウム族若くは無水塩化マグネシウム, 或は両者の混合物 0.05～3% 及びカルシウムシリコン若くはフェロシリコン又は両者の混合物 0.5～5% を緊密に混合した事の特徴とする。

#### ニッケルチタン合金

特公・昭 35—3214 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—7—1, 発明: 土井俊雄, 出願: 株式会社日立製作所

ニッケルを主成分とし, これにチタン 2～8% を含有し, なおアルミニウムおよびコバルトの混入はおのの6% 以下, その他微量の不純物の含有を許容する。(高温に於てタンゲステン, モリブデン等より抗張力が優れているため, 例えば電子管, 白熱電灯, 蛍光灯, 水銀灯等の各種線材又は点火栓電極, 化学繊維用ダイス等に好適であると共に又常温に於ては特殊鋼より抗張力が強大であるため, 一例としてマニピュレーターのワイヤー, テープ等に用いて極めて有効である。)

#### 真空鑄造装置

特公・昭 35—3216 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—5—24, 発明: 相楽秀雄, 出願: 三菱造船株式会社

鑄型を収蔵する真空室上に, 外周部を伝熱的に装置本体に連結され且熔湯注入時内周部が熔湯に接するような金属製の熔湯注入口を設けて, 該熔湯注入口を可熔片により気密に閉塞すると共に該熔湯注入口の上位に下端が開いた漏斗状湯溜を連結してなることを特徴とする。

#### 密着性被覆の製法

特公・昭 35—3215 (公告・昭 35—4—7) 出願: 33—4—15, 優先権: 1957—4—16 (米) 発明: グレゴアル・グツワアイト, ジョセフ・アル・スプロール, 出願: 日本カニゼン株式会社